

## 第1号議案—1

### 品質保証研究会 平成26年度活動報告

#### 1. 活動状況

(1) 平成26年度の活動は、第24回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	通常総会	第24回通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	講演会	1回
			見学会	1回
3	QASGニュースの発行	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	第82号～84号	3回
4	定例研究会活動	グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ	6回
			第2グループ	3回

(2) 平成26年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

#### 2. 活動要約

平成26年度の活動要約を表2に示す。

表1 品質保証研究会 平成26年度活動実績

○・▽：計画 ●・▼：実績

項目		2014年(平成26年)						2015年(平成27年)							
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
全体活動	総会	第24回 6/10 ▼												第25回 6/10 ▼	
	講演会	計画							○--- (案内発送)	---▽ 第42回					
		実績								● 1/8 (発送案内)	▼ 2/18				
	見学会	計画				○--- (案内発送)	---▽ 第40回								
		実績					▼ 鉄道総研 10/22								
	QA SG ニュース	計画		○--- (依頼)	○--- (締切)	82号 ---▽ (発行)				○--- (依頼)	'83号 ---▽ (発行)	○--- (依頼)	○--- (締切)	'84号 ---▽ (発行)	
実績			● 7/18 (依頼)	---	---	---	▼ 82号11/14 (掲載)		● 1/6 (依頼)	▼ 83号 2/5 (掲載)	● 3/24 (依頼)	---	▼ 84号 (掲載)		
第1 グループ	計画		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			
	実績		▼ 7/11		▼ 9/16		▼ 11/4	▼ 12/19		▼ 2/17		▼ 4/16			
第2 グループ	計画			▽ (定例研究会)					▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			
	実績			▼ 8/28					▼ 1/21			▼ 4/1			
H. Pメン テナンス	計画	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→	
	実績													→	
幹事会	計画			第158回 ▽		第159回 ▽			第160回 ▽		第161回 ▽	第162回 ▽			
	実績			▼ 8/27		▼ 10/29			▼ 1/23		▼ 3/24	▼ 4/22			

表2 平成25年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	第24回 通常総会		平成26年6月10日(火) 学士会館 2階202号室	59名 (他、委任 状32名)	(1)議案審議 ①平成25年度活動報告・決算案の承認 ②平成26年度活動計画・予算案の承認 ③役員・顧問の承認 (2)定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演 会	特別講演	平成26年6月10日(火) 学士会館 2階202号室	93名	福島原発事故の分析視点-多様な失敗の要素を 考える 柳田邦男氏〔ノンフィクション作家〕
		第42回 講演会	平成27年2月18日(水) TKP東京駅八重洲カンファ レンスセンター(8F)8E室	33名	化学プラントの事故から学ぶこれからの安全 管理 中村昌允氏〔東京工業大学大学院イノ ベーションマネジメント研究科客員教授〕
3	見 学 会	第40回 見学会	平成26年10月22日(水) 公益財団法人鉄道総合技術研 究所	34名	施設/設備見学(車内快適性シミュレータ,大 型振動試験装置,リニアモーターカー展示) 及び人間科学研究部ご講演・意見交換など
4	定 例 研 究 会	第1 グル ープ (リー ダ: 奥平 光城 会 員)	<p>【研究テーマ】 品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 —原子力セクタ規格の調査・検討—</p> <p>-----</p> <p>【研究の内容】 原子力QMSのあるべき姿を検討するため、前年度に実施した 原子力セクタ規格の調査・検討結果に基づき、以下の議論を 実施した。</p> <p>(1)ISO9001:2015改定案に対するコメント集約 ISO9001:2015に対して、主に原子力業界で運用を考慮した 研究会コメントを集約した。品質保証組織の独立や不適合 管理の文書化など原子力業界の慣例とギャップがある項目 を認識した。</p> <p>(2)NSQ-100の検討 NSQ-100ドラフトに対して、各社における現状の運用との ギャップアナリシスを実施した。NSQ-100の目的、方向性 には理解できるものの、原子力機器供給者、サプライチェ ーンへの適用を考慮した場合、運用方法や適用範囲の明確 化が必要である。</p> <p>(3)QMS枠組マトリクスの検討 原子力発電所の建設・維持に適用するマネジメントシステ ムの各要素を、それぞれの利害関係者の立場を考慮し、体 系的に議論した。原子力QMSといっても立場が異なれば、 目的や対象が異なる。東京電力福島第一原子力発電所事故 のような事象を未然に防ぐ為には、従来 of 事業者や設計・ 製造者を対象としたQMSだけではなく、規制局を含めた、 いわゆる大きなマネジメントシステムの枠組みが必要であ る。本質的な改善のためには、組織を超えた大きな枠組み におけるPDCAを検討すべきである。事業者、設計・製造者 は、規制との適合性確認だけに終わるのではなく、専門分 野、技術者として、自主・自立的な貢献が発揮される環境 を提供するマネジメントシステムが求められる。組織が本 質的ではない問題に疲弊し、マネジメントシステムの形骸 化や形式的な品質保証に陥らないためにも、安全や品質ク ラスに応じた対応や、事象の軽重を考慮したメリハリのあ るマネジメントシステムが期待される。また、現状の規制 の制度が、原子力安全の有効性だけではなく、経済合理性 の観点から検証される機会が必要である。</p>	<p>定例研究会</p> <p>平成26年7月11日 平成26年9月16日 平成26年11月4日 平成26年12月19日 平成27年2月17日 平成27年4月16日</p>	

表2 平成25年度 品質保証研究会 活動要約(2/2)

番号	項目	内容
4	<p>定例研究会</p> <p>第2グループ (リーダー：氏田博士 会員)</p>	<p>【研究テーマ】 エラーマネジメントに関する調査研究</p> <p>-----</p> <p>【研究の内容】 以下の2つのテーマに対し、これまで平成26年8月28日、平成27年1月21日と4月1日に研究会を開催した。その中でも特に、レジリエンスエンジニアリング®(RE)の手法を用いた緊急時対応を分析する研究活動の講演を中心に議論した。また、我々独自の分析も進めまとめた。</p> <p>(1)東京電力福島第一原子力発電所事故の分析と評価 H25年度活動に引き続き、「安全を達成するために必要な個人及び組織の在り方」を、以下の調査を通して検討した。</p> <p>①東京電力福島第一原子力発電所事故の緊急時対応分析 レジリエンスエンジニアリング®(RE)及び高信頼性組織(HRO)の手法を用いて緊急時対応を分析し、分析結果を整理し提言をまとめた。</p> <p>②安全思想の再構築 「原子力自主的安全性向上の論点・整理と役割分担と工程の提言」「確率的安全評価(PRA)日米比較分析」「安全思想の再構築工程検討」の調査・検討するとともに、提言としてまとめた。</p> <p>(2)レジリエンスエンジニアリングの適用</p> <p>①Resilience Analysis Grid(RAG)のシート見直しと組織の再分析及び詳細化の調査・検討を実施した。各社へのQA活動への反映まで実現したい。</p> <p>②良好事例分析として、統一的な教訓シートに基づき、良好事例(3事例)と過去に分析した組織事故分析(9事例のうち1事例)を見直し教訓を抽出した。</p>
5	<p>QASG ニュースの発行</p>	<p>(1) 第82号 平成26年11月 (2) 第83号 平成27年2月 (3) 第84号 平成27年5月</p> <p>①24回通常総会報告 ②第1・2グループ活動計画および活動報告 ③平成26年度役員紹介 ④40回見学会記 ⑤第42回講演会報告、他</p>
6	<p>幹事会</p>	<p>上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第158回～第162回の計5回開催)</p>